

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
業務結果説明書

別紙イ

団体名： 長野県

1. 事業の概要

事業名称	バイリンガル指導者を活用した日本語学習支援事業
事業の目的	同国人に対して日本語と母国語で生活に必要な日本語表現の指導や、日本社会の習慣・マナーを伝授するバイリンガル人材を育成し、その者を活用した日本語教室を実施することにより、日本語学習支援の拡充を図り、外国籍県民等の自立と社会参画を目指す。 バイリンガル人材が実体験を基に、外国人として最も必要としていること・学ぶべきことは何かを考え、同国人に指導していくことにより、外国人のニーズにあった日本語教育を行う。 平成26年度(東北信地域)、平成27年度(中信地域)で育成した者の日本語学習支援に向けた取組みをフォローするとともに、事業の目的及び成果を全県に広げるため、今年度は南信地域(岡谷市)を中心とした地域でバイリンガル日本語指導者を育成する。 また、県の多文化共生推進月間(7月)にあわせてシンポジウムを開催し、日本語学習の現状やこれまでの取組み・成果、課題等について有識者とバイリンガル人材、その他関係者による意見交換を行うとともに、その重要性について外に向けて情報発信する。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	県内の外国籍県民等の日本語習得に関する状況と主な課題は以下のとおりである。 ①滞日年数が長く日常会話が十分可能であっても、読み書きができないというケースが多く、役所や回覧板等の文書を理解することが困難であったり、行政サービスを受けるために必要な手続きがスムーズに行えない。 ②子育てにおいて、保護者の日本語能力が不足している場合、学校とのやり取りに支障をきたしたり、地域の習慣を知らないため誤解が生じてしまうケースが多い。 ③日本語能力が十分でない両親の家庭では、子どもに日本語を触れさせる機会が比較的少なく、また、母国語のツールも日本では手に入りにくく乏しいため、子どもがどちらの言語の習得も不十分なまま、就学時期を迎えてしまう。 県内には、市町村やボランティアグループによる日本語教室が69箇所あるが、多くは、支援者の高齢化と人材不足等の課題を抱えており、上記のような受講者の多様な課題に充分に対応できていない。また、活動内容は主に生活に必要な初級レベルの日本語能力取得が最優先となり、人材育成には手が行き届かない状況である。 外国にルーツを持つ子どもたちが、親の日本語能力が十分でないことや、親が日本の教育に関して知識や情報がないことが原因で、言語を習得する環境が整わず、母語も日本語も不十分な状態になってしまうなど、深刻な課題が発生していることもふまえ、本県では、こうした外国籍県民の言語コミュニケーション上の課題に対応するため、日本語学習支援事業に取り組んでいる。 現在、日本語教育機関、地域の日本語教室、県・市町村等、様々な形で外国籍県民の方への日本語学習支援は行なわれているものの、今後長野県においてどのようにこの支援を行なっていくかが、大きな課題となっている。 この事業の講座を修了したバイリンガル指導者が、地域において、自身のコミュニティの中心的役割を果たすようになってきてはいるものの、近年、地域において外国籍県民の方が生活・活躍をされることに伴い高度な事例における通訳を求められることが増え、今後必要とされてくる通訳者の育成も課題となっている。
本事業の対象とする空白地域の状況	岡谷市を含む県の南のエリアでは、日本語教室のない町村が多く(19町村中、日本語教室があるのは6町村のみ)、本事業により、今後これら地域の市町村・学習支援者等と協働して、支援策を検討していく。
事業内容の概要	同国人に対して、日本語と母国語で、日本語指導や日本社会の制度・習慣等を伝えることができる人材を育成する。さらに、育成講座修了者が、各コミュニティで必要とされる日本語表現のニーズ分析を行い、自ら指導者となる日本語教室の内容を企画する。バイリンガル指導者が、コミュニティ内外の日本語が不自由なために課題を抱えている層を対象に呼び掛けをし、子育てや公的サービスを受ける上で必要な日本語表現など、ニーズに基づいた日本語表現を教える教室を実施する。 この取組みにより、日本の制度や習慣を理解し、生活に必要な日本語への認識を深める。 また平成26年度、平成27年度に育成したバイリンガル指導者の活動をフォローするため、修了者による日本語教室やスキルアップのための知識を伝える研修会を実施するとともに、各年度の修了生とのネットワークの構築を図る。
事業の実施期間	平成28年5月～平成29年3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	井澤 正典	TPR株式会社 長野工場 総務室 グループマネージャー
2	石井 恵理子	東京女子大学 現代教養学部 教授
3	岡本 典幸	岡谷市 企画政策部 企画課 課長
4	須田 恵瑞	(公財)長野県国際化協会 常務理事兼事務局長
5	春原 直美	佐久市市民活動サポートセンター センター長
6	橋爪 誠	(公財)おかや文化振興事業団 国際交流センター センター長
7	堀 永乃	(一社)グローバル人材サポート浜松 代表
8	山本 晋司	長野県 県民文化部 国際課 課長



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	H28年5月12日(木) 13:00～15:00	2:00	岡谷市役所 202会議室	委員8名＋事務局 ※岡本委員の代理で 岡谷市企画課鈴木主査出席	1. バイリンガル指導者を活用した日本語学習支援事業 (H27事業の報告、H28事業の概要説明等) 2. 事業成果の検証方法 3. 運営委員会の開催
2	H28年7月11日(月) 13:30～15:40	2:10	岡谷市役所 603会議室	委員7名＋事務局 ※井澤委員欠席	1. バイリンガル日本語指導者育成講座 実施状況 2. 外国人コミュニティのための日本語教室 実施状況 3. 日本語教育指導者のためのスキルアップ研修 4. 多文化共生推進月間 実施結果 5. 日本語教育推進のための検討会
3	H28年11月14日(月) 13:30～16:00	2:30	岡谷市役所 605会議室	委員7名＋事務局 ※井澤委員欠席、 岡本委員の代理で 岡谷市企画課宮坂主幹出席	1. バイリンガル日本語指導者育成講座 実施結果 2. 外国人コミュニティのための日本語教室 実施状況 3. 日本語教育指導者のためのスキルアップ研修 実施状況 4. 多文化共生推進月間 実施結果 5. 日本語教育推進のための検討会 実施状況 6. 平成29年度多文化共生推進事業(県、長野県国際化協会)
4	H29年2月13日(月) 15:00～17:00	2:00	長野県庁 404号会議室	委員8名＋事務局 ※岡本委員の代理で 岡谷市企画課宮坂主幹出席	1. 外国人コミュニティのための日本語教室 実施結果 2. 日本語教育指導者のためのスキルアップ研修 実施結果 3. 日本語教育推進のための検討会 実施結果 4. 平成29年度日本語学習支援事業(長野県国際化協会) 5. 平成28年度日本語学習支援事業 事業評価

(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	バイリンガル日本語指導者育成講座の開催地である岡谷市の多文化共生担当課に対して、人材の掘り起こし等で協力を依頼し、事業終了後の人材の活用についても共に検討を行った。 その他、運営委員会には日本語教育専門家に加えて、外国人を雇用する企業に出席を依頼し、育成講座及び日本語教室を地域の実情に合った形で実施するための検討を行った。 また、取組の一つとして「日本語教育推進のための検討会(取組4)」を行い、長野県がこの3年間取り組んできた日本語教育について検証し、更に次のステップとしての日本語教育の推進について検討を行った。 中核メンバー及び主な連携先は運営委員としてこの事業の運営に携わった。
------	--

(3)中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	中核メンバーは運営委員としてこの事業の運営に携わるとともに、以下の活動を行った。 【取組1】バイリンガル日本語指導者育成講座 ・ これまでのカリキュラムの検証および今年度のカリキュラムの作成支援 ・ 受講者のモチベーションを維持させるための提案 ・ 受講者が育成講座修了後、日本語教室を開設するにあたっての指導、助言 【取組2】外国人コミュニティのための日本語教室 ・ バイリンガル指導者による日本語教室のカリキュラム作成支援 ・ バイリンガル指導者による日本語教室の日本語指導内容のチェック ・ バイリンガル指導者のモチベーションを維持させるための提案 【取組3】日本語教育指導者のためのスキルアップ研修 ・ 効果的な日本語の指導方法や日本語教室運営への提案 【取組4】日本語教育推進のための検討会 ・ これまで取り組んできた日本語教育についての検証 ・ 日本語指導者の育成についての提案 ・ 連携体制についての提案 【取組5】多文化共生推進シンポジウム ・ 構成に関する提案 ・ 講師の紹介 等
----------	--

3. 各取組の報告

＜取組1＞										
取組1	取組の名称		バイリンガル日本語指導者育成講座							
	取組の目標		バイリンガルでの日本語指導方法、日本社会の習慣やマナー、子育て等で必要な日本語表現等についての知識を講義する。							
	取組の内容		同国人に対して、バイリンガルでの日本語指導と日本社会の習慣やマナーを教授できる人材を育成する。 講座は参加者どうしのディスカッションやワークショップを多く取り入れて行う。主な内容は以下のとおり。 ①外国籍県民等をとりまく社会的背景と課題を捉え、多文化共生社会のためにバイリンガル指導者が果たしうる役割を考える。 ②文化の違いから起こる誤解や対立、それを乗り越える為に必要なことを考える。 ③日本人のコミュニケーション、習慣やマナー等、人間関係に関わる言語行動や規範、意識の文化差を知り、相互に調整する方法を考える。 ④各国コミュニティで必要とされる日本語指導のニーズ分析を行う。 ⑤年少者の日本語学習支援に必要な知識を学ぶ。 ⑥学校や役所の通知の読み方、公的サービスの手続きの際に必要な日本語表現を学ぶ。 ⑦各コミュニティで周囲の人々と関わりながら日本語力を高めることを目指し、教室活動の設計を行う。							
	☒	空白地域を含む場合、空白地域での活動	岡谷市を含む県の南のエリアでは、日本語教室のない町村が多いため(19町村中、日本語教室があるのは6町村のみ)、本事業によりこれら地域においてバイリンガル指導者を育成する。							
	取組による体制整備		バイリンガル指導者が、母国語も使用しながら、日本の制度・習慣や生活に必要な日本語表現を指導することにより、外国籍県民等が日本語への認識を深める。 募集の段階で人材の掘り起こしを行い、講座修了者を地元の自治体が把握することで、地元での活用を促す。 また取組2の「外国人コミュニティのための日本語教室」において指導経験を積んだ後、地域でコミュニティのための日本語教育活動を展開し、外国籍県民等の社会参画に寄与する。							
	取組による日本語能力の向上		日本の制度や習慣、生活に必要な日本語表現をバイリンガルで指導できる知識とノウハウの習得							
	参加対象者		日本語能力試験N2以上を取得 あるいは同等レベルの日本語力を有する外国籍県民等			参加者数 (内 外国人数)		45人 (45人)		
	広報及び募集方法		県の設置する多文化共生くらしのサポーター(母国語相談員)を通じた人材紹介、県と県国際化協会のHP、facebook、広報紙(県及び市)への掲載、各国コミュニティでの口コミによる周知 等							
	開催時間数		総時間 24.5時間 (空白地域 24.5時間)							
	主な連携・協働先		岡谷市、飯田市等南信地域の市町村多文化共生担当課、 (公財)おかや文化振興事業団国際交流センター、NPO法人伊那国際交流協会 等							
	開催場所		岡谷市							
	参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
			17				7		1	20
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名	
1	H28.5.28(土) 13:00～16:00	3:00	岡谷市 イルプラザ	38	・開講式 ・バイリンガル指導者の意義と必要性 ・日本語の整理とブラッシュアップ	・受講者自身の体験を交えながら、日本における外国人を取り巻く環境、地域の日本語教室の現状について意見交換を行った。 ・日本語の類似表現や日本語学習者の間違いやすいポイントについて学習した。		佐藤 佳子	—	
2	H28.6.5(日) 13:00～14:30	1:30	岡谷市 イルプラザ	42	・暮らしの相談と相談のことば	読めない封筒や文書のことば、行政機関等での手続きのことばに加え、様々な相談窓口、相談の流れや相談のポイントについて学習した。		八木 航	川西 ケンジ (補助者)	
3	H28.6.5(日) 14:30～16:00	1:30	岡谷市 イルプラザ	42	・子どもたちの育ち、生活を支えるために(地域、学校(PTA)の基礎知識)	学校、PTA、地域(町内会等)の仕組みや役割について学び、子どもたちや自分たちのために学校や地域でできることについて意見交換を行った。		栗林 恭子		
4	H28.6.26(日) 13:00～16:00	3:00	岡谷市 イルプラザ	38	・コミュニティのニーズ分析	日本語教室の役割と機能、バイリンガル指導者に求められる役割、バイリンガル指導者だからこそできることについて学ぶとともに、来日間もない外国人について知っておくべきこと・配慮すべきことについて意見交換を行った。		堀 永乃	—	
5	H28.7.9(土) 13:00～16:00	3:00	岡谷市 イルプラザ	41	・子どものことばを育てる	子どものことばを育てるために必要な3つの視点について学んだ後、言葉の力や、子どもの学びを促し、ことばを育てる活動について意見交換を行った。		石井 恵理子	—	

6	H28.7.24(日) 13:00～14:30	3:00	岡谷市 イルプラザ	38	・日本の教育制度、 学校の仕組み	日本の教育制度と、学校でのルール や行事等の学校文化について学んだ 後、海外の教育制度や学校文化との 違いや、保護者に期待されていること について意見交換を行った。	大橋 春美	—
7	H28.7.24(日) 14:30～16:00	3:00	岡谷市 イルプラザ	38	・価値観の多様性	日本で生活していく中で起こり得るコ ミュニケーション摩擦の事例を挙げな がら、各事例について外国人の気持 ち、日本人の気持ち、自分自身の経 験について考え、意見交換を行った。	徳井 厚子	—
8	H28.8.21(日) 13:00～16:00	3:00	岡谷市 イルプラザ	36	・日本語コミュニケー ション活動の設計	日本語学習のニーズを把握すること を念頭に置き、活動の設計を行った。 また、これまでの内容でよく分からな かったことについて意見を出し合い、 今後実施する日本語教室のイメージ を整理した。	堀 永乃	—
9	H28.8.28(日) 13:00～16:00	3:00	岡谷市 イルプラザ	35	・教案作成、発表準 備	昨年度の講座修了生による事例発表 の後、これまでに設計した活動計画 の確認と準備を行った。	佐藤 佳子	春原 直美 (コ) 佐藤 琴絵 (補助者) 松本 暁鳳 (補助者)
10	H28.9.10(土) 13:00～16:30	3:30	岡谷市 イルプラザ	39	・模擬演習、活動方 針の発表 ・修了式	グループ毎に発表(模擬演習)を行 い、講師による講評を行った。また、 修了条件(16コマ中12コマ以上の出 席)を満たした参加者41名に対し、修 了証を授与した。	佐藤 佳子	—

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回(5/28)、第4回(6/26)】

第1回・第2回の両講座において、講師に受講生のやる気を更に引き出していただくことができた。元々、今年度は過去2年と比べても多くの参加申し込みがあり、受講生のモチベーションも最初から高いように思われていたが、この講座を受けることで、受講生は活動についての自信をつけ、更に「地域のため・後輩のため、何かしたい」という気持ちが強くなった。

①第1回(5/28)

日本における外国人を取り巻く現状について講義を受けた後、参加者は自分自身の日本語学習の経験や、日本語で困ったこと等の経験談を発表した。

その上で、来日した外国人がどんなところで困難に直面するか、地域において何をどう変えていけば課題が解決できるかについて意見交換を行った。

その後、日本語教室やバイリンガル指導者の役割や意義について講師から説明を受け、外国人の目線で考え、外国人だからこそ、地域のため・同国出身の後輩たちのためにできることについても意見を出し合った。

②第4回(6/26)

外国人が活躍できるまちづくりの必要性について講義を受けた後、外国人が活躍するためには何が必要か、どうやって日本語力を身につけて行くか、日本語を身に付けて何ができるようになりたいかについて意見を出し合った。

また、講師の地元で活躍する外国人材の事例紹介の後、自分達ならどんなことができるかについても意見交換を行った。

講座の後半では、外国人に対しどんな時に支援が必要になるか、その時にバイリンガル指導者としてどんな知識や技術が必要になるか、就学前の子育てと介護をテーマに意見を出し合った。

<参考> 受講者の声

- ・外国人として何ができるかをたくさん学んだ。
- ・外国人として、初めて自分の役目と価値が見えてきました。
- ・日本に来たばかりの外国人に(日本語や日本の制度・習慣を)教えることは大事なことと気づかされました。
- ・日本語教室の内容のイメージができました。
- ・自分の地域にいる外国人との交流ができて楽しかった。



○取組事例②

【第2・3回(6/5)、第6・7回(7/24)】

これらの講座は、日本の教育制度や学校の仕組み、学校・PTA・保護者の役割等について改めて学び直す機会となった。自国の制度や考え方の違い、ミスコミュニケーション等から発生する問題や摩擦について、外国人・日本人それぞれの立場から考えた。

日本で生活するにあたり困ったことについては、国籍や来日の理由により様々で(日本人の配偶者として来日した中国やフィリピン出身者と、仕事のため来日したブラジル出身者では、課題も日本語の学習方法も大きく異なった)、他のコミュニティの人がどんなことで悩んでいるのか・どんなことを考えているのか意見交換できたことは、受講生が視野を広げ考える上で大変参考になり、また、国籍を超えお互いがブラッシュアップする良いきっかけとなった。

<参考> 受講者の声

- ・相談できる場所があることを知れてよかった。
 - ・相談に行く時の事前準備ができて良かった。
 - ・PTAに参加することや地域と関わることの大切さがわかった。
 - ・何事も参加することは大変だが、それは将来自分のためになる。まず一歩踏み出す勇気から取り組んで、色々なことに参加してみたい。
 - ・日本の小中学校の行事や服装を写真付きで紹介すると、知らない人には大変勉強になる。
 - ・文化の違いや相手の立場を考えてコミュニケーションを取ることはとても難しい。
- 日本に来た時にこの講座を受けていれば良かったと思ったので、後輩の外国人に早めに教えてあげたいと思う。



(2) 目標の達成状況・成果

過去3年間で最多となる45名の申込みがあり、その内41名が講座を修了した。今年度は男性の割合も増え(45名中6名)、子育て経験のある方からブラジル人学校の先生まで、様々なバックグラウンドの方が集まったため、意見交換も大変盛り上がった。また、今年度はグループ分けを言語別ではなく地域別で行ったため、国籍を超えた横のつながりをつくることができた。

今回の受講生は外国人や地域の課題に対する意識の強い方が多かった。後輩が自分と同じ苦しみを味わわないように・同じ失敗で恥をかかないようにという善意の気持ちで参加する人が多く見受けられた。

全16コマの講座をとおして、日本語表現の整理、教室で使えるツール・知識(相談窓口の情報や日本の教育制度の基礎等)、教室開催のためのノウハウ、そしてバイリンガル指導者としての役割について学んでいただくことができた。

<参考> アンケート結果

- ・講座を受講してバイリンガル日本語指導者として「大変成長した」「まあまあ成長した」と回答した者の割合 92%
- ・プログラムを受けて日本語が「上手になった」「まあまあ上手になった」と回答した者の割合 85%
- ・プログラムを受ける前よりも日本での生活が「できるようになった」「少しでもできるようになった」と回答した者の割合 85%
- ・プログラムに「満足している」「まあまあ満足している」と回答した者の割合 97%
- ・もっと日本語を勉強したいと回答した者の割合 97%

<参考> 受講者の声

- ・バイリンガル指導者として日本語教室をやってみよう。日本に来た中国人に日本の文化を教えたい。
- ・研修生や主婦を集めて日本語教室を開こうと思う。
- ・日本語指導者としてまだまだたくさん学ばなければいけないと思います。
- ・この講座に参加して、自分のため・困っている人のため・日本にいる外国人に役立つ講座を開きたい。
- ・日本に来てから色々不便なことや相手と話をしていると違っていることがありました。
- ・日本に来たばかりの友人に教えてあげたいことがたくさんあります。
- ・身近に困っている人がいたら助けてあげたいので、これから日本語教室や交流会など、外国人の活動にも積極的に参加したいです。
- ・今回の経験を活かして、日本にいるブラジル人のために活動をしたいです。
- ・忘れていた苦労や日本に来た時の悩みを思い出して、日本語が分からない人の気持ちを理解できるようになりました。
- ・(自分が教えたいことではなく)皆さんが必要としていることを教えることが大事だと思います。
- ・できるだけ自分の力を出し切って、グループと先輩の経験を活かしてがんばります。
- ・色々な壁があると思いますが、楽しく生徒に教えることができれば良いな。気合でがんばって、元気出してやりたいと思います。

(3) 今後の改善点について

昨年度の反省点をふまえ、講座初日に講座受講者に求めること(日本語教室を開催すること)を説明したものの、趣旨が十分に伝わっておらず、日本語教室を企画・開催するための準備を講座の中ではじめてころに、不安になってしまった受講生が多く見受けられた。

また、教室を始める際に必要な情報(会場の選び方、行政手続き、お金のやりくり、参加者を集めるコツ、教室を継続させるコツ等)を一から教えて欲しいという意見があった。

＜取組2＞										
取組2	取組の名称		外国人コミュニティのための日本語教室							
	取組の目標		上記の講座修了者及びH26～27年度に育成したバイリンガル日本語指導者が、地域の外国籍県民等に対して、生活に必要な日本語表現等について講義する。							
	取組の内容		バイリンガル日本語指導者育成講座修了者による日本語教室を開催し、地域の同国人に対して、生活に必要な日本語表現や日本社会の習慣、マナーなどを教授する。 教室活動の具体的な内容は、バイリンガル指導者自身が各コミュニティのニーズ分析を通して企画し、設計していく。 外国人による外国人のための教室として、日本語指導のみならず、バイリンガル指導者がコミュニティに対して社会参加と自立のモデルとして呼び掛けをしていく場とする。 また、平成26～27年度に育成した指導者の行う日本語学習支援の取組みをフォローする。							
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備		バイリンガル指導者は、教室活動を実際に行うことにより指導経験を身につけ、地域において自主的な日本語支援活動を行うことができるようになる。 受講者は、生活に必要な日本語を母国語も介しながら効率良く習得することができ、生活力を高め、将来的にバイリンガル人材となりうる。 また、県や開催市にとっては、バイリンガル指導者を通じた受講者の参集により、日本語習得が必要なものの従来の日本語教室には来ていなかった層にアプローチが可能となる。							
	取組による日本語能力の向上		子育て等に必要日本語表現を学ぶとともに、日本で生活していく上で必要になる知識やルールに関する日本語を習得する。							
	参加対象者		来日して間もない者、学習機会に恵まれなかった者等				参加者数	301人		
	広報及び募集方法		県と県国際化協会のHP、facebook、バイリンガル指導者及び各国コミュニティでの口コミによる周知 等							
	開催時間数		総時間 77時間							
	主な連携・協働先		(公財)おかや文化振興事業団国際交流センター、岡谷市等南信地域の市町村多文化共生担当課、NPO法人伊那国際交流協会等							
	開催場所		岡谷市、諏訪市、茅野市、飯田市、箕輪町、松本市、長野市、佐久市							
	参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
			93	5	0	0	42	0	4	121
			その他 ミャンマー 1、 不明 35							
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	グループ名	取組テーマ、内容		指導者名	補助者名	
1	H28.10.30(日) 10:00～12:00	2:00	茅野市地域 コミュニティセンター	6	多言語教室	自己紹介の練習の後、日本のビジネスマナーについて学ぶ		張 鴻	宋 靖	
2	H28.11.13(日) 10:00～12:00	2:00	茅野市地域 コミュニティセンター	5	多言語教室	日本語の基礎(初級)		張 鴻	宋 靖	
3	H28.12.17(土) 10:00～12:00	2:00	岡谷市 諏訪湖ハイッ	6	多言語教室	日本語の第一歩 丁寧語、謙譲語、尊敬語について学ぶ		菊池 ジョセリン	—	
4	H29.1.14(土) 10:00～12:00	2:00	岡谷市 イルフプラザ	5	多言語教室	料理教室 和食の定番「肉じゃが」と「味噌汁」の作り方を学ぶ		菊池 ジョセリン	田尾 セリナ	
5	H28.10.23(日) 10:00～12:00	2:00	岡谷市 諏訪湖ハイッ	15	バイリンガル日本語教室	防災について 岡谷市の出前講座も活用し、災害への備えについて学ぶ		浜 歩乃華	—	
6	H28.10.30(日) 10:00～12:00	2:00	岡谷市 諏訪湖ハイッ	12	バイリンガル日本語教室	レストランを楽しもう レストランで使う日本語表現について学ぶ		白 雪艶	—	
7	H28.11.6(日) 10:30～12:30	2:00	岡谷市 諏訪湖ハイッ	12	バイリンガル日本語教室	電話の掛け方 電話を掛ける際の日本語表現、119番のかけ方、電話での予約の仕方を学ぶ		保科 美杉	—	
8	H28.11.27(日) 10:00～12:00	2:00	岡谷市 諏訪湖ハイッ	5	バイリンガル日本語教室	くらしに役立つマナー 温泉やエスカレーターでのマナー、お土産とお返しのマナー等について学ぶ		王 曉慧	—	
9	H28.12.11(日) 10:00～14:00	4:00	岡谷市 あいとぴあ	18	バイリンガル日本語教室	冬のあったか日本料理 人気の和食「カレー」「からあげ」「豚汁」「寒天ゼリー」の作り方を学ぶ		浜 歩乃華 白 雪艶 王 曉慧	—	
10	H28.11.6(日) 13:30～15:30	2:00	松本市 Mウイング	5	Matsumoto Friendly Japanese	丁寧な自己紹介とひらがなの言葉1 (対象:来日間もない参加者)		川上 エバンジェリン	持山 シャロン	

11	H28.11.13(日) 13:30～15:30	2:00	松本市 あがたの森	5	Matsumoto Friendly Japanese	丁寧な自己紹介とひらがなの言葉2 (対象:来日間もない参加者)	川上 エバンジェリ ン	持山 シャロン
12	H28.11.27(日) 13:30～17:00	3:30	松本市 Mウイング	12	Matsumoto Friendly Japanese	巻き寿司を作りながら日本語を学ぶ	百瀬 ルビーアン	ヤップ レイナ
13	H29.1.22(日) 13:30～15:30	2:00	松本市 Mウイング	6	Matsumoto Friendly Japanese	着物の着付けをしながら日本語を学 ぶ	持山 シャロン	—
14	H29.1.29(日) 13:30～15:30	2:00	松本市 Mウイング	11	Matsumoto Friendly Japanese	日本のバレンタインデーとホワイト デーの文化について学ぶ	ヤップ レイナ	百瀬 ルビーアン
15	H28.10.8(土) 14:00～16:00	2:00	箕輪町 産業会館	8	もみじぐみ	料理を楽しみながら日本語を学ぼう スーパーでの買い物の仕方、手巻き 寿司の作り方を学ぶ	古庄 美枝子	—
16	H28.10.22(土) 14:00～16:00	2:00	長野日伯学 園	12	もみじぐみ	日本の学校生活を知ろう 日本の学校で使う言葉、日本の学校 特有の文化について学ぶ	新里 美樹	陰山 エルザ
17	H28.11.5(土) 14:00～16:00	2:00	長野日伯学 園	12	もみじぐみ	歌いながら日本語を学ぼう ブラジルのボサノバを使って、歌詞に 出てくる様々な言葉を日本語で学ぶ	リマ ヘルナデテ	—
18	H28.11.19(土) 14:00～16:00	2:00	長野日伯学 園	14	もみじぐみ	長野県の観光地 日本の地域と、長野県の観光地につ いて学ぶ	小松崎 君代 ソラヤ	—
19	H28.11.26(土) 14:00～16:00	2:00	長野日伯学 園	11	もみじぐみ	ブラジルのリズムで日本語を学ぼう カポエイラを日本語で学ぶ	リマ ウィルソン ロ ベルト	—
20	H28.10.5(水) 18:00～20:00	2:00	岡谷市 TPR記念会館	5	華笠美人	御柱祭に向け、花笠踊りを練習する (足のステップとフレーズ)	劉 秀艶	王 娟
21	H28.10.11(火) 18:00～20:00	2:00	岡谷市 TPR記念会館	5	華笠美人	御柱祭に向け、花笠踊りを練習する (笠回しとフレーズ)	劉 秀艶	王 娟
22	H28.10.12(水) 18:00～20:00	2:00	岡谷市 TPR記念会館	8	華笠美人	御柱祭に向け、花笠踊りを練習する (太鼓に合わせて手と足の動きを練 習)	劉 秀艶	王 娟
23	H28.10.17(月) 18:00～20:00	2:00	岡谷市 TPR記念会館	8	華笠美人	御柱祭に向け、花笠踊りを練習する (復習、改善が必要な部分の練習)	劉 秀艶	王 娟
24	H28.10.19(水) 18:00～20:00	2:00	岡谷市 TPR記念会館	14	華笠美人	花笠踊り リハーサル	—	—
25	H28.11.19(土) 14:00～16:00	2:00	伊那市 伊那公民館	6	BLOSSOMS	日常生活で使う日本語、仕事の現場 で使う日本語を学ぶ	米澤 カロス	—
26	H28.11.26(土) 13:00～16:00	3:00	伊那市 伊那公民館	5	BLOSSOMS	プラネタリウム見学の後、見学の時に 出た日本語を復習する	内藤 良子	—
27	H28.12.3(土) 13:00～16:00	3:00	伊那市 伊那公民館	10	BLOSSOMS	介護認定の手続きや、介護制度、介 護用語を学ぶ	宮原 奈々絵	内藤 良子 山岸 奈々
28	H28.10.9(日) 14:00～16:00	2:00	飯田市 上郷公民館	9	飯田りんご日本語教 室	病院での受付、問診票の書き方と体 の部位の名称を学ぶ	島田 真美	船橋 ユミ 夕 アネ
29	H28.11.6(日) 14:00～16:00	2:00	飯田市 上郷公民館	6	飯田りんご日本語教 室	ハローワークの職員から面接でのマ ナーや服装、言葉遣い等について学 ぶ	久保田 秀彦 長沼 映子	脇田 ルリコ セイオ アマンダ
30	H28.11.20(日) 14:00～16:00	2:00	飯田市 上郷公民館	13	飯田りんご日本語教 室	飯田市職員から日本の自然災害、災 害への備え、一般救命について学ぶ	—	セイオ アマンダ 船橋 ルイザ フ ミエ
31	H28.12.18(日) 13:00～16:00	3:00	飯田市 上郷公民館	10	飯田りんご日本語教 室	日本の料理「巻き寿司」「豚汁」を作り ながら日本語を学ぶ	脇田 ルリコ 船橋 ルイザ フミ エ	—
32	H28.6.18(土) 10:30～14:00	3:30	長野市 県消防学校	7	ORANGE	県消防学校の一般開放日を活用し、 地震・火災体験、救命救急等につい て学ぶ	—	譜久里 一雄
33	H29.1.22(日) 13:00～16:00	3:00	佐久市 創錬センター・中 央図書館	8	—	日常生活に必要な日本語を学ぶ、図 書館の使い方を学ぶ	賀沢 マリア	箕輪 真理 本村 栄治 春原 直美 (コ)
34	H28.12.11(日) 13:00～15:00	2:00	松本市 松本南公民 館	7	松本健康づくり 日本語教室	太極拳を体験しながら日本語を学ぶ	松本 暁鳳	—

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第20～24回 華笠美人】

6年に1度開催される諏訪地域の御柱祭で披露される「花笠踊り」を練習するため、地元企業の外国籍の従業員と研修員が集まった。参加者は初めて日本の踊りを体験し、また、踊りで使う日本語や歌のフレーズは独特の言い回しが多く、参加者にとっては初めて学ぶ言葉が多かった。作詞家の方にも来ていただき、歌詞の意味や歌詞の背景まで学び、地域の歴史・文化に触れることができた。作詞家の方以外にも、踊りの指導や太鼓の演奏のため、多くの地域の方に参加いただいた。

練習とりハーサルを経て、勤務する企業の行事で踊りを披露したが、その後、地元の方から、地区の行事でも踊ってみたいかとお声掛けをいただき、地区の行事にも参加し、地元の方々と交流も行うことができた。



○取組事例②

【第32回(6/18) ORANGE】

県の消防学校が実施する一般開放日に合わせて日本語教室を企画・実施した。

当日は参加者が消防学校で、地震や火事(煙)の体験、基礎の救命救急やAEDの使用法について、実体験を交えながら学習することができ、大変有意義な日本語教室となった。

地域の自治体が提供するサービスを活用した日本語教室はこれまであまり例がなかったため、これから日本語教室を始めようとする他のバイリンガル指導者にとっても良い事例となった。(その後、今年度は、地域の自治体の出前講座等を活用した日本語教室が多く実施された。)



(2) 目標の達成状況・成果

計34回(77時間)の日本語教室を開催し、延べ301人の外国籍県民に参加いただくことができた。

平成26年度・平成27年度と比べて、①地域の日本人に協力していただいて日本語教室を実施したグループ、②地域の自治体が提供するサービスを活用した日本語教室を実施したグループが増加した。

①について、例えば、花笠踊りや和食の料理教室で地元の方に指導いただいたり、純粋に日本語を学習する教室においても、地域で日本語を教えるボランティア活動を行っている方に参加いただいたケースがあり、平成26年度・平成27年度と比べて地域コミュニティとの強いつながりを感じた。

②については、上記で紹介した消防学校での日本語教室の他、自治体の出前講座の制度を利用して、岡谷市や飯田市の危機管理防災担当の職員や消防士を招いて防災講座を行ったり、図書館で司書から図書館の利用方法を説明いただいたり、ハローワークの職員と相談員を招いて就職活動に必要な情報を説明いただいた。こういったツールを活用して教室を開催する方法もあることをバイリンガル指導者に学んでいただくことができた。

<参考> 日本語教室参加者アンケート結果

- ・日本語教室が「とても役に立った」「まあまあ役に立った」と回答した者の割合 96%
- ・プログラムを受けて日本語が「上手になった」「まあまあ上手になった」と回答した者の割合 93%
- ・プログラムを受ける前よりも日本での生活が「できるようになった」「少しでもできるようになった」と回答した者の割合 93%
- ・プログラムに「満足している」「まあまあ満足している」と回答した者の割合 97%
- ・もっと日本語を勉強したいと回答した者の割合 90%

<参考> 受講者の声

- ・全部必要な新しい知識でとても役に立ちました。
- ・参加する度に新しい言葉を覚えることができた。
- ・日本に23年間住んでいるが、知らないことがあった。
- ・毎回講座がとても面白かった。
- ・119番に電話をしたことが無い人が多いと思う。相手の対応も含め良い経験になった。
- ・子どもにも教えられるようになりたい。
- ・もっと時間が欲しかった。もっと講座をして欲しい。講座を続けていけば、ブラジル人に活気がつく。
- ・もっと言葉を覚えたら、将来生活が良くなる。

(3) 今後の改善点について

行政手続きや広報の部分でつまづいたり、教室の開催を諦めてしまうバイリンガル指導者が多かったため、このような部分で彼らの活動を日本人が裏からどのようにサポートしていくか検討が必要と思われる。

また、今回日本語教室を実施して一番課題となったのが、報告書等の必要書類の提出である。書き方が分からない・何を書けばよいかわからないという相談が多く寄せられ、都度アドバイスや指示を行い、なんとか全ての書類は集められたものの、日本語は話せても読み書きが不得手な一部のバイリンガル指導者にとってはこれが大変な負担であった。育成講座の受講から日本語教室の開催までは楽しみながら前向きに取り組めたが、最後の最後で嫌な思い(頻繁に書類提出の催促をされたり細かい修正指示をされたり等)をしたとの意見も出た。今後、可能な限り報告書を簡素化することや、母国語での記入も可とするなど、対応が必要であると考え。

また、アンケートの内容が抽象的で、どう答えれば良いのか分からないという意見も出た(日本での生活ができるようになりましたか等)。

＜取組3＞									
取組3	取組の名称		日本語教育指導者のためのスキルアップ研修						
	取組の目標		地域日本語教室等で活動中の日本語教育指導者に対して、スキルアップのための知識を伝える研修会を行う。						
	取組の内容		地域で活動しているバイリンガル日本語指導者に対し、スキルアップのための知識を伝えるとともに日本語教室の立ち上げや運営における課題をどの様により乗り越えて来たかなど、受講者間の情報交換により修了生の連携を促進する。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		地域のバイリンガル日本語指導者のモチベーションを喚起するとともに、効果的な指導方法を学ぶことにより、日本語教室の活性化が図られる。また、近隣の日本語教室との連携を推進することにより地域の日本語学習支援の基盤が強化される。						
	取組による日本語能力の向上								
	参加対象者		H26～H28年度バイリンガル日本語指導者、地域日本語教室等で活動中の日本語教育指導者及びボランティア等				参加者数 (内 外国人数)	75人 (75人)	
	広報及び募集方法		メール、県と県国際化協会のHP、facebook 等						
	開催時間数		総時間 24時間						
	主な連携・協働先		NPO法人中信多文化共生ネットワーク、東北信地域の日本語教室 等						
	開催場所		佐久市、岡谷市、安曇野市、長野市						
	参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ
27			2	0	0	2	0	8	26
その他 ボリビア 3、ミャンマー 1、日本 5、不明 1									
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
1	H28.9.17(土) 13:00～16:30	3:30	岡谷市 イルプラザ	7	外国につながる子どもたちの学習困難とその背景	子どもが日本の学校に編入学する際に知っておくべきこと・準備しておくべきことについて、文化の違いも踏まえた上で意見交換を行った、	金城 アイコ	塩澤 正男 (コ)	
2	H28.9.24(土) 13:30～16:30	3:00	長野市 生涯学習センター	15	日本で働くために知っておきたいこと	ハローワークの相談員を務める講師が、窓口によく寄せられる相談事例を紹介し、原因や解決方法について意見交換を行った。また、研修の企画・準備を行った。(下記11/5の研修として実施)	横谷 マリア	春原 直美 (コ)	
3	H28.10.15(土) 13:00～16:30	3:30	岡谷市 イルプラザ	8	ロールプレイによる日本語のブラッシュアップ	日本語の苦手な人が言葉の問題により誤解を招いたりトラブルになったりすることが多い日常の場面をロールプレイで再現。自身の経験もふまえた上で、どうしてトラブルになったのか・どうしたらトラブルを回避できるかについて意見を出し合った。	佐藤 佳子	春原 直美 (コ)	
4	H28.10.29(土) 13:00～16:30	3:30	佐久市 創縁センター	12	ロールプレイによる日本語のブラッシュアップ	日本語の苦手な人が言葉の問題により誤解を招いたりトラブルになったりすることが多い日常の場面をロールプレイで再現。自身の経験もふまえた上で、どうしてトラブルになったのか・どうしたらトラブルを回避できるかについて意見を出し合った。	佐藤 佳子	春原 直美 (コ)	
5	H28.11.5(土) 13:30～16:30	3:00	長野市 生涯学習センター	13	雇用に伴う労働関連問題の基礎知識	ハローワークの窓口によく寄せられる相談事例を紹介し、問題の原因や解決策について意見を出し合った。また、労働局の職員から労働基準法についての講義を受けた。	横谷 マリア	—	
6	H28.11.13(日) 13:00～16:30	3:30	安曇野市 穂高会館	8	外国につながる子どもたちの学習困難とその背景	子どもが日本の学校に編入学する際に知っておくべきこと・準備しておくべきことについて、文化の違いも踏まえた上で意見交換を行った。	金城 アイコ	寺島 順子 (コ)	
7	H28.11.26(土) 13:30～16:30	3:00	佐久市 創縁センター	9	外国籍住民の視点で考える防災の基礎知識	外国人の視点で、緊急時の連絡先や知っておくべき日本語、災害に備えて準備しておくべき物について学んだ。また、市の職員から市の防災体制について、防災マップを使いながら説明を受けた。	横谷 マリア	—	

8	H28.11.25(金) 16:00～17:00	1:00	岡谷市ハートフル ステーションメモリー	3	岡谷多文化共生推進協議会	岡谷市の多文化共生推進協議会から、外国籍住民から見た諏訪地域について意見発表して欲しいとの依頼があり、今年度のバイリンガル日本語指導者育成講座受講者3名が出席した。来日してから困ったこと・悩んだこと、それらをどのように克服したか、今後外国籍住民としてどのように地域と関わっていきたいかについて発表を行った。	【発表者】 白 雪艶 菊池 ジョセリン 荒川 ルシアネ マユミ
---	-----------------------------	------	------------------------	---	--------------	---	--

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回(9/24)、第5回(11/6)】

第2回の研修会の後半で、どんなことを学びたいかについて参加者の間で意見を出し合い、そのテーマで次の研修会を行うこととした。話し合いの結果、労働問題についてもう少し掘り下げて学びたいということになった。

会場や講師の選定、日時の設定、各参加者の役割、広報の方法等についても意見を出し合い、第5回の研修会を開催することとなった。

労働問題についての知識を深められただけでなく、日本語教室開催のためのノウハウ(会場の確保、講師の依頼方法、広報の方法等)も身に付けることができる良い機会となった。



○取組事例②

【第8回(11/25)】

岡谷市の多文化共生推進協議会から、外国籍住民から見た諏訪地域について意見発表して欲しいとの依頼があり、今年度のバイリンガル日本語指導者育成講座受講者3名(白 雪艶(中国出身)、菊池 ジョセリン(フィリピン出身)、荒川 ルシアネ マユミ(ブラジル出身))が出席した。

各3名が、来日してから困ったこと・悩んだこと、また、それらをどのように克服したか、そして、今後外国籍住民としてどのように地域と関わっていきたいかについて発表を行った。

3名にとっては人前で日本語で発表する良い経験となった他、参加者(日本人)からは「普段あまり聞くことのない外国籍の方の本音が聞けて良かった」とのご意見をいただいた。また、地元紙に記事を掲載していただき、多くの方に、外国籍住民も地域の一員として、地域を共に支えていこうとしていることを情報発信することができた。



(2) 目標の達成状況・成果

計8回(24時間)の日本語教室を開催し、延べ75人の日本語指導者に参加いただくことができた。

昨年度からやり方を変え、教室で講義を聞くだけのスタイルだけではなく、意見交換やロールプレイ、日本語教室の企画・準備も多く取り入れ、すぐに実践で使える内容を盛り込んだ研修会とした。

また、上記事例②に記載したとおり、多くの日本人の前での発表は日本語指導者にとって良い経験になったとともに、多くの日本人に外国籍住民の活動を知ってもらえる良い機会となった。

<参考> 日本語教室参加者アンケート結果

- ・ 研修が「とても役に立った」「まあまあ役に立った」と回答した者の割合 98%
- ・ 日本語指導者として、地域と外国人コミュニティとの橋渡し役として「とても成長した」「まあまあ成長した」と回答した者の割合 96%
- ・ 日本語や日本の制度・習慣について学ぶ機会が必要だと思う気持ちが「強くなった」「少し強くなった」と回答した者の割合 95%
- ・ 外国籍住民のための日本語教育に「関わってみたい」「できれば関わってみたい」と回答した者の割合 68%

<参考> 受講者の声

- ・ 出身が違っても、自分と同じ悩みがあったり、違う悩みもあったり、いろんな意見が出て参考になった。
- ・ 自分の国の人たちの困っている問題だけでなく、他の国の人たちの困っていることの話を知ることができたのでとても良かった。
- ・ 今まで知らないことがたくさんあった。困っている方がいるので、役に立ちたい。
- ・ 問題がある時に相談できる場所があることが分かって良かった。
- ・ これから日本語教室を開くか、教え方が分らなかった。講義を聞いてアドバイスもいただけたのでほっとした。一生懸命頑張りたい。
- ・ 日本に住み働く上で知っておくべきこと、地域における役割を再認識できた。

(3) 今後の改善点について

取組1や2でも記載したとおり、これまで日本語教育に関わったことがない参加者もいたので、教室を始める際に必要な情報(会場の選び方、行政手続き、お金のやりくり、参加者を集めるコツ、教室を継続させるコツ等)を一から教える研修会の開催や、行政手続き等で後方から日本語指導者をサポートする日本人側の体制整備が必要であると感じた。

取組4	取組の名称		日本語教育推進のための検討会				
	取組の目標		長野県がこの3年間新たに取り組んできた日本語教育について検証し、更に次のステップとしての日本語教育の推進について、関係者により検討をする。				
	取組の内容		昨年度のあり方検討会をベースに、長野県がこの3年間新たに取り組んできた日本語教育について検証し、更に次のステップとしての日本語教育の推進について検討する。				
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動					
	取組による体制整備						
	取組による日本語能力の向上						
	参加対象者		検討委員長及び委員		参加者数 (内 外国人数)	8人 (1人)	
	広報及び募集方法		検討会委員長及び委員宛に開催通知を送付				
	開催時間数		総時間 7.5 時間				
	主な連携・協働先		市町村、大学、NPO法人、地域国際交流・日本語教育団体 等				
	開催場所		松本市、岡谷市、佐久市				
	検討委員		氏名	所属・役職 等		備考	
		1	市川 明美	安曇野市 人権男女共同参画課長			
		2	小沼 めぐみ	H26バイリンガル日本語指導者育成講座担当			
		3	笠原 理恵子	JICE外国人就労・定着支援研修現地連絡調整員			
4		賀沢 マリア 祐恵 宮島	H26バイリンガル日本語指導者育成講座受講者				
5		佐藤 友則	信州大学グローバル教育推進センター 教授		委員長		
6		佐藤 佳子	松本市地域日本語教育システムコーディネーター				
7		白田 咲子	おかや文化振興事業団 国際交流センター				
8		春原 直美	佐久市市民活動サポートセンター センター長				
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容		
1	H28.9.2(金) 14:00～16:30	2:30	松本合同庁舎 603号会議室	委員8名＋事務局	1. 事業の検証・評価について 2. 今後の取組みについて		
2	H28.10.14(金) 14:00～16:30	2:30	岡谷市役所 202会議室	委員7名＋事務局 ※市川委員欠席	1. バイリンガル日本語指導者育成講座修了者アンケート結果について 2. 文化庁委託事業の取組み方向性について 3. 県の取組み方向性について		
3	H28.11.18(金) 14:00～16:30	2:30	佐久合同庁舎 501号会議室	委員8名＋事務局	1. 平成29年度文化庁「生活者としての外国人」取組み概要について 2. 外国籍人財活躍の方策について		

(1)特徴的な活動風景 非公開

(2) 目標の達成状況・成果

平成26年度・平成27年度の事業に関わっていただいた方を中心に委員への就任を依頼し、当時の詳しい状況等も含め、過去3年間の取組みについて振り返り、議論を進めることができた。これまでの取組みの検証においては、

- ・ 外国人だけでなく、日本人と外国人が一緒になって行う活動、外国人が地域に溶け込むような活動が必要
- ・ 国際交流をしたい日本人や、地域のママ友グループと一緒に活動できないか
- ・ 硬い(学校スタイルの)日本語教室だけではなく、日常の相談や雑談もできるようなスタイルの日本語教室があっても良いのではないか
- ・ 各地域の支援者とコミュニティをつなげるコーディネーター的役割が必要ではないか 等の意見が出された。

また、平成26年度・平成27年度のバイリンガル日本語指導者育成講座の修了生を対象としたアンケート(アンケート対象者49名の内、30名が回答)からは、63%もの修了生が講座修了後に日本語指導者として地域で活動したとの回答が、53%もの修了生が現在も活動を続けているとの回答が得られた反面、行政と事業を実施すると報告書類の作成等に時間がとられてしまう等の意見も出された。また、79%の修了生が今後も都合がつけば活動したいと回答しているが、参加者の募集や準備時間の確保等に課題を抱えていることが分かった。

(3) 今後の改善点について

これまでの取組みや受講生のアンケート、検討会で出された意見等を参考に、引き続き外国籍県民の日本語学習を支援していく。
(詳細は下記 4. 事業に対する評価について を参照)

＜取組5＞									
取組5	取組の名称		多文化共生推進シンポジウム						
	取組の目標		県内日本語教育指導者（バイリンガル日本語指導者育成講座修了者を含む）による意見交換、及びこれまでの取組みの事業成果を外国籍県民、日本語学習支援者、市町村、NPO等に広く周知し、県内の日本語教育推進の機運を高める。						
	取組の内容		グローバル人材サポート浜松から講師をお迎えし、県内日本語教育指導者（バイリンガル日本語指導者育成講座修了者を含む）による意見交換、討論会等を開催する。 取組み3年目を迎え、各年度の修了生とのネットワークの構築も含め、今後の活動、更なる取組みに向けて考える機会とする。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		参加者ばかりでなく、テレビや新聞等を通じて広く取組内容を周知し、多文化共生の意識づくり及び日本語教育推進の機運を高める。						
	取組による日本語能力の向上								
	参加対象者		一般県民（外国籍の者を含む）、市町村の多文化共生担当者、教育委員会担当者、日本語学習支援に携わる団体・個人 等			参加者数 （内 外国人数）		52人 （24人）	
	広報及び募集方法		チラシ、県と県国際化協会のHP、facebook、バイリンガル日本語指導者育成講座受講生のロコミ 等						
	開催時間数		総時間 4 時間						
	主な連携・協働先		県国際化協会、岡谷市等近隣市町村の多文化共生担当課 等						
	開催場所		岡谷市						
	参加者の出身・国別内訳 （人数）		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ
12									9
その他 アメリカ 1、 イタリア 1、 シンガポール 1、 日本 28									
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	参加者数	内容				
1	H28.7.24（日） 10:00～14:00	4:00	岡谷市 イルプラザ	52	平成27年3月に策定した「長野県多文化共生推進指針」により定めた「多文化共生推進月間（7月）」に、日本語教育の意義や外国籍住民のおかれている現状について多くの県民に周知することで、県内の日本語教育推進の気運を高めると共に、外国籍住民が活躍する多文化共生の地域づくりを推進する。 10:00～10:15 開会、県の取組み紹介 10:15～11:45 トークセッション 「多文化共生のいま、むかし」 「外国人から見た、ここが変だよ！？長野県」 【コーディネーター】 （一社）グローバル人材サポート浜松 代表理事 堀 永乃 氏 【発表者】 平成28年度バイリンガル日本語指導者育成講座 修了生 ・ 川上 エバンジェリン 氏（フィリピン出身） ・ 浜 歩乃華 氏（中国出身） ・ 陰山 エルザ 氏（ブラジル出身） 11:45～11:50 まとめ、閉会 12:00～14:00 特別企画： 各国料理の試食会 13:00～16:00 同時開催： バイリンガル日本語指導者育成講座（第5回）				

(1)特徴的な活動風景

グローバル人材サポート浜松の代表であり、バイリンガル日本語指導者育成講座の講師等も務めていただいた堀氏と、今年度のバイリンガル日本語指導者育成講座修了生3名によるトークセッションを行った。修了生からは、日本に来て驚いたことや文化や言葉が分からず恥ずかしかったこと、日本語を勉強する理由や自分の住む地域でやりたいこと・目指す姿等についてお話いただいた。また、「良い街をつくっていけるよう、自分たちができることをしていきたい」と、支援されるばかりではなく、外国籍住民も地域に溶け込む努力をしていく必要があることや、様々な人の価値観を尊重することの大切さを訴え、多文化共生の観点から誰もが住みやすい街づくりについて考えた。



(2) 目標の達成状況・成果

3名の実体験を交えた意見発表は多くの外国籍参加者の共感を呼び、また、日本人参加者にとっても、同じ地域で暮らす仲間がどんなことで困っているのか・悩んでいるのかについて知り、多文化共生の地域づくりを進める良いきっかけになったと感じた。

＜参考＞ アンケート結果（参加者52名中、37名が回答）
・ 内容が「大変良かった」「良かった」と回答した者の割合 81%
・ 今後も「参加したい」と回答した者の割合 84%
・ 日本語学習の必要性を「大変感じた」「感じた」と回答した者の割合 95%

(3) 今後の改善点について

駅近の、人の多く集まるデパートで開催したこと、外国の料理が試食できるイベントを同時開催したこと、そしてバイリンガル日本語指導者育成講座を同時開催したことにより、これまでより多くの方に参加いただくことができた。
今後も、外国籍の参加者、地域の住民それぞれをどのように呼び込むか、その方法を工夫していく必要がある。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

同国人に対して日本語と母国語で生活に必要な日本語表現の指導や、日本社会の習慣・マナーを伝授するバイリンガル人材を育成し、その者を活用した日本語教室を実施することにより、日本語学習支援の拡充を図り、外国籍県民等の自立と社会参画を目指す。
バイリンガル人材が実体験を基に、外国人として最も必要としていること・学ばべきことは何かを考え、同国人に指導していくことにより、外国人のニーズにあった日本語教育を行う。
平成26年度（東北信地域）、平成27年度（中信地域）で育成した者の日本語学習支援に向けた取組みをフォローするとともに、事業の目的及び成果を全県に広げるため、今年度は南信地域（岡谷市）を中心とした地域でバイリンガル日本語指導者を育成する。
また、県の多文化共生推進月間（7月）にあわせてシンポジウムを開催し、日本語学習の現状やこれまでの取組み・成果、課題等について有識者とバイリンガル人材、その他関係者による意見交換を行うとともに、その重要性について外に向けて情報発信する。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

平成26年度からの取組みにより、おおよそ全県でバイリンガル日本語指導者を育成することができた（講座修了者数：東北信（H26）30名、中信（H27）19名、南信（H28）41名 計90名）。また、その者たちを活用した日本語教室も、平成26年度から延べ718名の方に受講していただくことができた。
これらの取組みを進めていく中で、あわせて、バイリンガル人材の掘り起しも進めることができ、地域の学校の通訳支援員や自治体の相談員として活躍いただける可能性が生まれた。
また、今後日本語学習支援事業を進めていく上での課題を明らかにすることができた。（下記（6）参照）
最後に、これらの取組みをとおり、外国籍住民の方がバイリンガルとしての強みに気づき、自信を持ってもらうことができた。アンケートの中にもあるように、これだけ多くの方が後輩の外国人のために・地域のために何かしたいと考えていることには、大きな意義があると考ええる。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

取組2でも記載したとおり、今年度は日本語教室で地域住民にご協力をいただいたり、地域の自治体が提供するサービスを活用したり、地域住民が参加する会合で意見発表をする等、外国人コミュニティの外と連携する事例が多くみられた。（地域の自治体やコミュニティとのつながりが強化されることで、孤立し悩む外国籍住民が減っていくことが期待される。）
また、上記（2）でも記載した通り、地域のバイリンガル人材の掘り起しができたことで、学校の通訳支援員や自治体の相談員として外国籍住民が活躍できる可能性も生まれた。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

チラシの配布やHPへの掲載も行ったものの、やはり外国籍住民の中では口コミが一番効果的であることを改めて実感した。今年度事業では地元の新聞に取り上げられることが何度かあり、普段外国籍住民と交流のない日本人にも、外国籍住民の実態や多文化共生の街づくりの必要性について情報発信できたと思われる。
多文化共生推進月間の、特にシンポジウム等のイベントについては、良い情報発信の機会になり得るため、来年度以降、より多くの日本人や外国籍住民が多く集まる場所（ショッピングモール等）での実施についても検討したい。

(6) 改善点、今後の課題について

検討会（取組4）におけるこれまでの取組みの検証や今後の日本語学習支援事業のあり方についての検討を経、来年度以降は、より多くの外国籍住民が気軽に集い日本語や生活に必要な知識を学習し、また、これまでに育成したバイリンガル日本語指導者が各地の日本語教室等で活躍し、日本語教育のネットワークを構築することに注力していく予定。
改善点については、これまでに記載したとおり、行政手続きや報告書の作成等、外国籍県民が苦手とするところを中心に、後方から彼らをサポートする日本人側の体制整備や、日本語指導者としてスタートしたばかりの方を対象とした助言や指導、日本語指導者と支援を必要とする者等をつなぐコーディネーター的役割が必要であると考ええる。

(7) その他参考資料

チラシ、報告書、教材、アンケートなど 別添のとおり